

市場変化や多様なニーズに対応する新拠点 低温物流で食の安定供給を支える

株式会社マルハニチロ物流様は、免震構造などの災害対策を施した名古屋物流センターを新設。自動倉庫を採用するなど自動化を推進し、省人化や物流品質の向上を実現しました。

株式会社マルハニチロ物流様（本店：東京都中央区）は、マルハニチログループにおいて「食」の安定供給という社会インフラの一端を担われています。荷主企業さまの多様な事業を支

える物流基盤として、全国の主要貿易港を中心に、合計約60万トンの保管能力を有する物流拠点を展開。品質管理と環境を重視した事業運営で、水産物・畜産物・冷凍食品といった低

温食品を中心に、幅広い商品の保管・輸配送・通関業務などのサービスを提供しています。

2021年4月に稼働を開始した「名古屋物流センター」（名古屋市港区）は、国内市場の変化と多様なニーズへの対応を目的に構築されました。将来の人手不足に対しては、冷凍庫内に1万5,032パレット保管できる自動倉庫を採用し、省人化を実現。自動化による物流品質の向上や、省エネ型自然

- ポイント
- ▶ 自動倉庫の導入により省人化を推進
 - ▶ 複数棚高を設定し、多様なニーズに対応
 - ▶ 免震構造を採用するなど、地震対策を徹底



高さ約20mのパレット自動倉庫「コンパクトシステム」は、ダブルディーブ方式を採用し、スタッカークレーンは6基。庫内温度は-25℃で管理されている。



0℃に設定されたピッキングエリアで方面別にまとめてケースピッキングを行う。空パレットの供給も自動化し、効率化を図っている。



入出荷エリア上部に架台を設けてコンベヤを設置。自動倉庫の入庫および出庫時の商品の搬送を自動化している。

冷媒機器の導入による環境への配慮にも取り組んでいます。また倉庫建屋に免震構造を採用し、自動倉庫のラックにはパレット落下防止用のストッパーを設置。事業の継続性に加え、商品や作業者の安全性も確保しています。

さまざまな工夫を凝らし 運営の効率化を実現

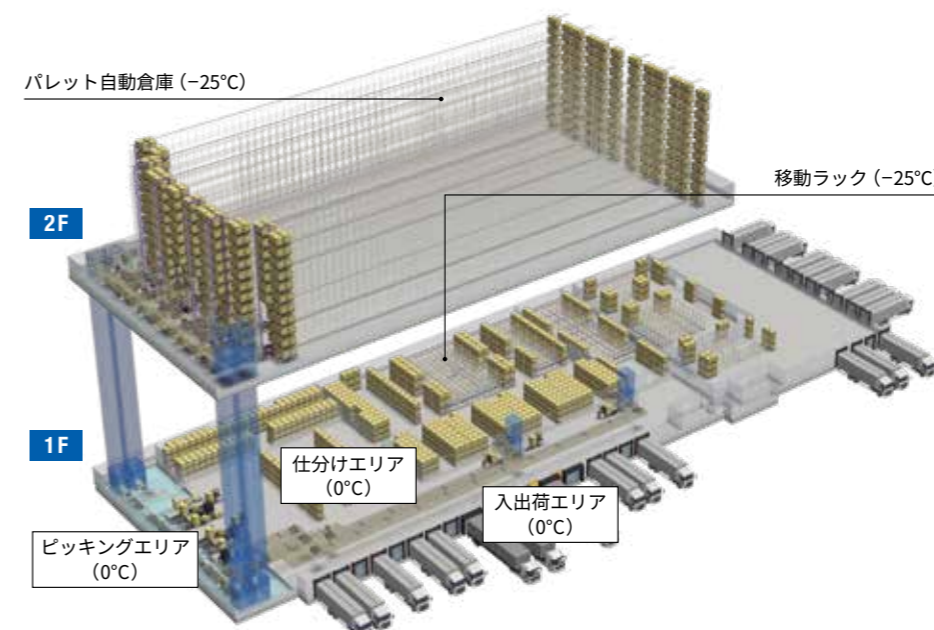
同センターでは、1階の荷さばきスペースを確保するため、2階に自動倉

庫を配置しています。自動倉庫のラックは、かさ高商品の増加に対応するものや、少量積載品に対応するものなど、3種類の棚高を設定し、多様なニーズに対応。ピッキングエリアには、パレット単位出荷用2カ所と、ケースピッキング用4カ所の計6カ所のステーションを設置するなど、出荷作業の効率化を実現しています。

また、人やフォークリフトの動線を遮らないように、入出荷エリア上部にコンベヤを導入。さらに自動倉庫に格

納できる荷重を超過している商品などを保管するために、移動ラックとパレットトラックを設置しています。

同社の中部支社 営業部長 兼 名古屋物流センター所長を務める上島 晋一様は、「導入後も丁寧にアフターフォローしていただいて、大変感謝しています。昼夜の稼働を考慮して、今後は点検や部品交換の頻度を再検討するとともに、作業者の習熟度向上に取り組むなど、安定稼働に努めてまいります」と今後の抱負を語っています。



「自動化により物流品質が格段に向上しました。また棚卸し作業の負担が大幅に軽減するなど、効率化にもつながりました」



中部支社 営業部長
名古屋物流センター所長兼務
上島 晋一様